

SDGs 推進円卓会議(10月31日) 2025年「自発的国家レビュー」(VNR)およびVNR報告書について

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本ペーパーは、SDGs 円卓会議開催に当たり、VNR に向けてここ1年程度経験してきたことを踏まえて、当方としての考え方を整理しまとめたものです。何らかのご参考になれば幸いです。

1. 基本的な観点

(1) 自発的国家レビューとは(「2030 アジェンダ」で確認)

- ◎ 「自発的国家レビュー」(VNR)の実施根拠は「[2030 アジェンダ](#)」の「フォローアップ&レビュー」(72-90 段落、特に 74、78、79 段落)にある。趣旨はおおむね以下の通り：
 - ・ 自発的、国主導。
 - ・ すべての国で、目標・ターゲットの進捗を測る。データに基づく。
 - ・ すべての人に開かれた包摂的・参加型・透明性の確保、人間中心、ジェンダー配慮、人権尊重、脆弱な人々に焦点を当てる。
 - ・ 国のレビューは、各国の現状や政策、優先課題を踏まえつつ、先住民、市民社会、民間セクターおよびほかのステークホルダーからの貢献を得つつ行われるべき 等。
- ◎ 国連が各国に提供している「[VNR 準備ハンドブック](#)」(2024 年版)でも、マルチステークホルダーでの参加型レビューを中心にすべきとされている。

(2) レビューおよび報告書のあるべき姿

- ◎ 日本の SDGs 取り組み政策や、今後 2030 年までの6年間、および「ビヨンド 2030」に向けたビジョンを打ち出すことは必要
- ◎ ただし、「それだけ」ではレビューにならず、上記の「2030 アジェンダ」を踏まえて、マルチステークホルダーによる、データに基づいた進捗状況レビューが基本になる必要がある。
- ◎ また、将来の SDGs への取り組みや「ビヨンド 2030」は、レビューを踏まえて提示される必要がある(少なくとも、そのような体裁をとる必要がある)

2. VNR の在り方に関する私見

- ◎ 日本は SDGs に積極的に取り組み、成果も出しているが、「日本の素晴らしいところ」だけをアピールするのではなく、<他の国と同様に、日本も試行錯誤し、苦闘しながら学び、歩みを進めている>という等身大の姿を見せてこそ、他国に共感される。(日本も私たちと同じく、苦悩し傷つきながら闘い、前進しているという姿を見せることが、特にグローバルサウスの共感を得るうえで大事)
- ◎ 今後や「ビヨンド 2030」へのビジョンについても、「日本ならでは」「日本人にしかできない」といったアピールではなく、「どの国も頑張ればできる」という普遍性を持ったビジョンとして打ち出す必要がある。他国が「参考にしたい」「一緒にやりたい」と考える形でアピールする必要がある。(「あんなことは日本にしかできない」と思われるような打ち出し方をした場合には、他国が参考にしたり、一緒にやる話にはならない)

3. 報告書の構成について

(1) 基本的な構成

- ◎ 「VNR」である以上、まず「レビュー」をベースとし、これに基づいて、今後の6年間や、「ビヨンド 2030」に向けたメッセージを打ち出す形にする必要がある。
- ◎ 実際、2023 年度の[各国の VNR 報告書](#)を確認しても、どの国も各ゴール及びターゲットについて、データに基づいたレビューを行っている。また、国連の「[VNR 準備ハンドブック](#)」も、レビューを行うことが前提で、「どのように各セクターの参画を実現するか」といったことについての解説となっている。これら

に鑑みれば、＜本来は＞「レビュー」⇒日本が打ち出すメッセージ、とするのが良いのではないか。

(2) レビュープロセスへの多ステークホルダー参画

- ◎ SDGs 円卓会議の民間構成員の実質的な参画を担保することが重要
 - ・ 専門家グループによるレビュー
 - ・ 国連の MGOS に倣った、「取り残されがち」なコミュニティの参画(特に、円卓会議や、関係グループ等で十分にフォローできていない MGOS も存在する)
 - ・ これらを実現する上で、SDGs 円卓会議に分科会を設置するのも一案。
- ◎ 前回の報告書(2021 年)に倣い、「円卓会議民間構成員による評価」のページを設ける(2021 年の報告書では 142 ページ以降に記述)
- ◎ SDGs 推進本部事務局との適切かつ恒常的なコミュニケーション、建設的な連携・対話に基づいて進めれば、良いものが作れるのではないか。

4. SDG ゴール3(保健・福祉)のレビューについて

(1) 国内ゴール3のレビュー

- ◎ 日本は一般的に、UHC の文脈で好成績をマークしており、社会のマジョリティのレベルで見れば、一定、保健医療への公平・公正なアクセスを実現している。この点、データに基づいたレビューを行うことで世界にアピールできる課題の一つと考えられる。
- ◎ 一方で、「何もかもが出来ていて、何の問題もない」というアピールをしても、各国から「参考にしたい」「一緒に取り組みたい」といった共感や意欲は生まれにくい。日本は SDGs ゴール3各ターゲットの達成に向けて高いレベルの成果を生み出しているが、それでも、様々な課題を抱え、各国と同様に悩みながら、さらなる高みを目指して取り組んでいる、という形で、普遍的なアプローチでアピールする方が良いのではないか。
- ◎ データについては、現在、外務省の「SDGs アクション・プラットフォーム」で公開されているデータのレベルでは、若干、不十分な点がある。もう少し「進捗」がわかるようなレベルでデータを示したほうが良いのではないか。
- ◎ 日本の課題として、以下の課題の現状、および、どのような政策・戦略で臨んでいるかについて、示す必要があるのではないか。
 - ・ 高齢化・人口減少下での UHC や必要なケアの実現にかかる課題
 - ・ メンタルヘルスおよび自殺の現状と取り組みにかかる課題
 - ・ SRHR・女性の健康に関する課題
 - ・ 在日外国人の医療アクセスに関する課題
 - ・ 公的医療保険や社会福祉制度の持続可能性に関する課題

(2) SDGs ゴール3に関する国際協力に関する課題

- ◎ SDGs ゴール 17 とも関連する課題。各国におけるゴール3達成に向けた日本の多国間の努力については、積極的にアピールできる領域(主要な多国間資金拠出機関において、日本は常に上位のドナー国をなしてきた)
- ◎ グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)への拠出などは、「市民社会との連携」「誰も取り残さない取り組み」「人間の安全保障」の実現、という観点でもアピールできる
- ◎ UHC の推進などは、日本が世界の中で SDGs の特定ゴールの実現に向けてリーダーシップをとって来た実例としてアピールが可能ではないか。

以上